

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 11 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463380

研究課題名(和文) 双子児をもつ母親の母児愛着促進と妊娠 - 育児期継続支援プログラムの開発

研究課題名(英文) The development of the continuation support program for twin pregnancy - child cares with promoting attachment of twin mothers

研究代表者

佐々木 睦子 (SASAKI, MUTSUKO)

香川大学・医学部・教授

研究者番号：90403782

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：双子妊婦の妊娠期から育児期までの継続的支援プログラムの開発を目的に、双子妊婦の思いと要望、および助産師の双子妊婦ケアへの認識を調査した。双子妊婦の要望を盛り込んで、双子妊婦専用保健指導冊子を作成した。また、調査結果より、双子妊婦にもっと全力で寄り添いたい助産師の思いが明らかになった。さらに、地域子育て支援団体と連携して、多胎児家庭交流会を複数回開催し成果を得た。双子妊婦に特化した保健指導内容の確立と、より具体的な支援の必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose is development of continuous support programs from the gestation period of the twin pregnant woman to the child care period. We investigated a feeling and the demand of the twin pregnant woman and recognition to the twin pregnant woman care of the midwife. We included the demand of the twin pregnant woman and made a health guidance booklet. Also, we determined the feeling of the midwife who wanted to snuggle up to a twin pregnant woman with every effort. Furthermore, we held multiplets home exchange meeting in cooperation with a local child care support group. We established instruction suitable for a twin pregnant woman, and the need of more concrete support was suggested.

研究分野：母性看護学

キーワード：双子妊婦の支援

1. 研究開始当初の背景

晩婚化に伴う生殖医療や不妊治療の進歩により、高齢妊娠や双胎妊娠が増加している。また、胎児愛着は出産後の母児愛着に影響することから、妊娠中のストレスや不安、抑うつ感、胎児愛着を阻害し、胎児発育に影響する。双胎妊婦の不安は単胎妊婦よりも大きく、育児不安も高いことから、虐待の要因となる。すなわち双胎妊婦には妊娠初期から母児愛着を促す効果的な支援が重要である。超音波装置の発達で胎児イメージがポジティブな影響を与えるが、2次元画像では識別の困難性が指摘されている。4次元超音波は立体的な動画であり、妊婦は胎児イメージが容易となり、胎児愛着の促進につながる。

双胎妊婦の半数は不妊症治療後であり、また高齢出産の可能性が高いことから、妊娠初期からひとりひとりのニーズと心身の状況に応じた個別的な支援が必要である。これまでの双胎支援は育児期が中心であり、妊娠期からの母児愛着や個別的な支援に焦点をあてたものはみられない。

本研究は、妊娠期から育児期までの新たな双胎妊婦支援プログラムの開発をめざすものである。

2. 研究の目的

不妊治療に伴う生殖医療の進歩により双胎が増加傾向にある。妊婦は喜びと同時に妊娠・出産、育児に不安を持ち、母児愛着が不十分なまま出産に至ることが多い。また単胎に比べて不安が大きく、出産後の虐待要因となる。これら妊娠中のストレスは胎児発育にも影響する。双胎は異常経過が多いことから医師管理中心である。すなわち双胎妊婦には、双胎と判明した時から助産師による母児愛着に向けた個別的継続的な支援が求められる。本研究では、妊娠初期からの超音波を活用した母児愛着促進と、双胎妊婦専用の個別相談窓口と母親学級の開設、さらに、双子を育てている母親達との交流や入院中の双胎妊婦訪問によって、双胎妊婦の妊娠から育児期までの継続的支援に向けた新たなプログラムを開発し、その有効性を明らかにするものである。

3. 研究の方法

(1) 4次元超音波を活用した双胎妊婦および双子の母親への双胎妊娠中のニーズおよび胎児愛着に関する調査

研究対象

母体合併症及び産科異常のない双胎妊婦 10名

研究方法

・半構成的面接調査

双胎妊婦への調査は、妊婦健診時に通常の4次元超音波検査後に実施した。内容は双胎妊娠中の胎児への思い、不安および困っている内容、医療者への要望についてインタビューを行った。その際、同意を得てICレコー

ダーに録音した。

・質問紙調査

妊婦健診の超音波検査における胎児DVDを家族と視聴した後に質問紙調査を実施した。質問紙構成はDVDを一緒に視聴した人、最も関心の高かった胎児画像内容、視聴後の妊婦と家族の感想、および母性意識尺度(大日向, 1988) 12項目、胎児愛着尺度(Prenatal Attachment Inventory: PAI; Muller, 1993)の日本語版 21項目である。

分析方法

基本属性は記述統計を行う。インタビュー内容については逐語録におこし、質的帰納的に内容分析する。内容を繰り返して読み、文章中に含まれる意味内容を損なわないよう留意しながら、コード化し、サブカテゴリーとカテゴリーを抽出する。胎児への愛着(PAI)と母性意識については、高低群間で分析する。統計処理はIBM SPSS statistics version 20を用いて行い、 $p < 0.05$ を有意とする。自由記載内容についても質的帰納的に内容の分析をする。

倫理的配慮

本学倫理委員会の承認を受けた後に実施した。さらに、個人情報の保護として、本研究の目的と方法、研究への協力は任意である、得られたデータは全てコード化し連続可能匿名化を遵守する、研究成果発表・報告では、個人の特定可能な内容は公表しない、および研究目的以外には使用しない等について、文書と口頭で説明し、文書による同意が得られた場合に実施した。

(2) 助産外来に「双胎妊婦個別相談窓口」設置と「ふたごの母親学級」開催準備

研究協力施設にある助産外来の助産師と連携して、妊婦健診ごとに、双胎妊婦特有の心身症状への保健指導や個別の相談に対応する相談窓口開設を進める。具体的には双胎の妊娠・分娩経過や異常の早期発見に関するパンフレット作成で、双子の具体的な授乳方法や育児用品の紹介等も含める。

一般の妊婦健診や個別指導とは異なる場所で、プライバシーの保持と何でも相談できる雰囲気作りをする。設置後は双胎妊婦の相談内容と対応についてまとめ、双胎妊婦個別相談窓口の評価を行い、より充実した内容となるよう改善していく。「ふたごの母親学級」は育児に関わる夫や家族が参加可能な日時に開催し、情報交換や家族ぐるみの交流の場となるよう工夫する。開催後は実施内容と参加者の反応をまとめて評価し、内容の充実を図っていく。

(3) 助産師の双胎妊婦支援の実態調査

実際に双胎妊婦のケアや支援に携わっている助産師の具体的な支援内容について実態を調査し、問題点や課題を明らかにする。指導や支援内容のレベルを一定のものにするため、問題点や課題について、臨床の助産師達と改善策等について検討していく。

(4) 双胎妊婦と双子の子育てをしている母親との交流の場「こんにちは双子のお母さん」作りと入院中の双胎妊婦への病室訪問支援活動に向け、病院内の基盤作りと実施

双胎妊婦と双子子育て中の母親との交流に向けて、病院内の双胎妊婦支援の基盤作りを進める。さらに、地域の双胎支援グループと連携し、双胎妊婦と双子の子育て中の母親と交流を実現していく。

これらの実際から、双胎児を持つ母親の妊娠-育児期の総合的支援プログラムを確立する(図1)。

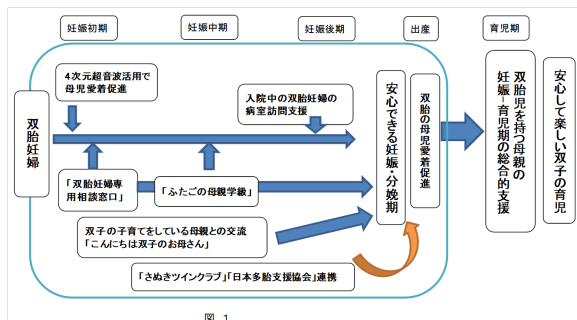


図 1

4. 研究成果

(1) 4次元超音波を活用した双胎妊婦および双子の母親への双胎妊娠中のニーズおよび胎児愛着に関する調査
調査で得られた12名の双胎妊婦について分析した。

- 【双胎の実感と楽しみ】
- 【喜びより不安が大きい】
- 【何でも知りたいから教えてほしい】
- 【双子の情報を知りたい】
- 【職場の協力と気遣い】
- 【双子の親になる決意】

(2) 助産外来に「双胎妊婦個別相談窓口」設置と「ふたごの母親学級」開催準備
以下の手順で双胎妊婦保健指導用パンフレットを作成した。

内容に関する意見・感想と追加項目等について、臨床助産師の意見聴取
内容に関する意見・感想と追加項目等について、双子母親から意見聴取
双胎妊婦用と指導者用のパンフレットを作成し、臨床で4か月間、計14名の双胎妊婦への指導に試用活用
～の意見をまとめ、内容の修正と追加項目を作成した。

主な追加修正内容は以下である。

- ・ 双胎分娩経過、同時授乳の方法等はイラストを活用し大きくした

- ・ 文字はできるだけ大きくした
- ・ 準備用品のチャイルドシートに関する内容を追加
- ・ 多胎家庭交流会での意見から、「お父さんの役割とワークライフバランス」を追加した
- ・ 妊娠期・産後の育児期に向けて父親も一緒に考えてもらえるような内容を追加した
- ・ 実際多胎育児をしている父親の感想を厚生労働省のイクメンプロジェクトより抜粋し、先輩からの生の声として追加
- ・ 多胎育児準備チェックリストでは、物品内容を再検討し、1ページ目で必要最低限のものが分かるように見開きにまとめた
- ・ 体験談をもとに育児に活用できる物品を「意外と役に立ったもの」として追加した
- ・ 地域支援制度
- ・ 母子健康手帳とともにいつでも携帯できるように、サイズをA5版とする
平成30年7月頃発行予定である。
(図2: A5サイズ, カラー, 500冊)

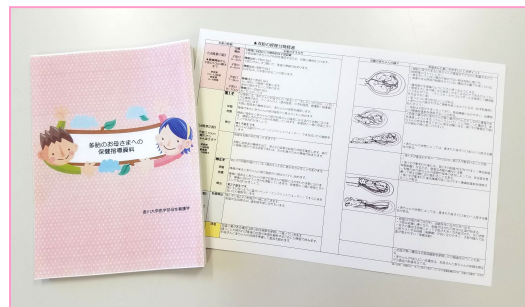


図2 双胎妊婦用パンフレット

(3) 助産師の双胎妊婦支援の実態調査

入院中の双胎妊婦へのケアについて助産師がどのように認識しているかを明らかにすることを目的に事態調査した。

方法: A県内の総合周産期母子医療センター2施設で勤務する、助産師習熟段階レベルを認証された助産師9名を対象に半構造化面接を行い、質的帰納的に内容の分析をした。香川大学医学部倫理委員会の承認後に実施した。

結果: 対象者9名の分析結果より、助産師は【双胎妊婦は急変リスクが高いことを念頭におく】【二児の児心音を短時間で正確に聴取することを最優先する】【不快症状が強くと現れやすいため意識して声を掛ける】【双胎児への愛着を促すことを常に意識している】、【双胎妊娠の思いを受け止め、頑張り認め全力で寄り添いたい】等、9カテゴリが得られた。

考察: 助産師は双胎妊婦特有の身体的・精神的負担を考慮して、安全・安楽な入院生活と分娩や育児をイメージすることと双胎児へ

の愛着形成促進が重要と認識していた。

結論：助産師は双胎妊婦にもっと全力で寄り添いたいという高い目標を掲げていることが明らかになった。双胎妊婦に特化した保健指導内容の確立やピアサポート導入等の必要性が示唆された。

(4) 双胎妊婦と双子の子育てをしている母親との交流の場「こんにちは双子のお母さん」作りと入院中の双胎妊婦への病室訪問支援活動に向け、病院内の基盤作りと実施

地域の子育て支援団体 - NPO 法人ゆうゆうクラブと連携し、平成 27 年度より多胎児家庭交流支援事業「ジュモクルズに乾杯」を大学内で共同開催している。また、香川大学は後援として協力を得ている。

事前打ち合わせ、前日の会場準備、当日の会場誘導等にも協力した。また、看護学生や大学院生と病棟助産師にも呼びかけて協力を得た。総参加者数は第 4 回 81 名、第 5 回 56 名、第 6 回 61 名であり、多胎児家族間の交流、および助産師や看護学生との交流につながった。合わせて、さぬきツインクラブとの連携を推進した。ゆうゆうクラブは日本多胎児支援協会と連携していることから、さらなる連携を図っていく予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 睦子 (Sasaki Mutsuko)

香川大学・医学部・教授

研究者番号：90403782

(2) 研究分担者

・秦 利之 (Hata Toshiyuki)

香川大学・医学部・教授

研究者番号：20156334

・金西 賢治 (Kanenishi kenzi)

香川大学・医学部・准教授

研究者番号：10263906

・花岡 有為子 (Hanaoka Uiko)

香川大学・医学部・講師

研究者番号：10314931



図 3: 「第 6 回 Jumeauxcles で乾杯!」ポスター)

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 2 件)

(1) 双胎妊婦の妊娠中の思いのプロセス：
佐々木睦子、片山理恵、中澤恵美里、横田妙子、秦利之、第 55 回日本母性衛生学会学術集会、2014 年

(2) 母からみた双胎児の発達評価：佐々木睦子、第 4 回新胎児学研究会 シンポジウム「多胎の胎内干渉」、2016 年